

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 10 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520913

研究課題名(和文) 途上国の社会政策にみる統治性と主体構築 フィリピンの都市貧困層地区の事例から

研究課題名(英文) Governmentality and Subjectivity under the Neoliberal Social Policy in the Philippines: Toward an Anthropology of "the Social"

研究代表者

関 恒樹 (Seki, Koki)

広島大学・大学院国際協力研究科・准教授

研究者番号：30346530

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：フィリピンのマニラ首都圏におけるスラム住民を対象とし、都市貧困層住民への所得補助事業としての条件付現金給付プログラムに関して、調査を行った。調査は、住民へのインタビューやプログラム施行過程の参与観察などを中心に行われた。本プログラムは、現金収入の限られた住民たちに、一定の購買力を与える効果はある一方で、受益者に要求されるさまざまな条件が、住民たちに必ずしも受け入れられていない様子も明らかになった。本事例は、貧困というリスクの管理、統治において、公助が脆弱な途上国において、自助に依存した支援が展開される際のさまざまな矛盾を示唆している。

研究成果の概要(英文)：This study analysed the contemporary regime of governing risk and reconfiguration of the social in the process of entrenching impact of neoliberalism and globalization in developing countries such as the Philippines. Particularly it focuses on the Conditional Cash Transfer Program, locally called 4Ps, among the slum residents of Metro Manila, the Philippines. The case of the Philippines is significant and suggestive because it indicates how, and in what way, undoubtedly neoliberal rationality of government of risks are often coexisting with seemingly contrary principles such as social welfare, redistribution, planning, and state intervention into the intimate sphere such as the family.

研究分野：文化人類学

キーワード：社会政策 社会福祉 ネオリベラリズム 統治性 文化人類学 フィリピン 社会開発 社会的なもの

### 1. 研究開始当初の背景

1990年代以降グローバル化とネオリベリズムの潮流に浸透されつつある途上国の社会政策の特徴を、統治性と主体構築をキーワードとして、フィリピンにおける現地調査に基づいて明らかにすることが、申請時における研究の背景、動機であった。フィリピンは、他のアジア、アフリカ等の途上国と同様に、1990年代以降、福祉や社会サービスの供給において、地方分権、NGOや企業の前景化、そして個人や共同体の自助の強調などが顕著に見られるようになった。フィリピンを事例とすることで、今日のネオリベラルな潮流のもとでの社会政策とその実施過程にみられる統治性と主体構築の動態に関する民族誌的研究を行うことを意図した。

### 2. 研究の目的

本研究は、途上国の貧困緩和を目的とする社会政策の実施過程において、国家、市民社会、受益者住民など諸アクター間にいかなる権力作用が生じ、その過程で住民はどのような規範や合理性を内面化した主体となるかが要請されているのか、このような点を、フィリピン・マニラ首都圏の貧困層居住地区の民族誌的事例から明らかにすることを目的とする。本研究は、より望ましい政策・制度構築を目的とする通常の実証的社会政策研究の立場には立たず、むしろそのような研究を批判的に補完することを意図する。特に、具体的社会政策・制度に触発されつつ紡ぎだされる人々の実践、語り注目し、そこに表現される人々の主観的意味世界を抽出することを通して、今日必要となる社会政策の文化人類学を練り上げることを目標とする。

### 3. 研究の方法

本研究遂行にあたって採用された主要な方法は、フィリピン・マニラ首都圏における非正規居住地区、あるいはスラムにおけるフィールドワークによる資料収集である。特に、代表者が数年にわたって既に住み込み調査の経験がある、マリキナ市マランダイ地区の貧困層居住地区にてフィールドワークを行い、現地語(主にフィリピン語)を用いたインタビューと参与観察を行った。さらに、現地に密着したフィールドワークでは得ることが困難な、政策や制度に関する資料は、政府機関(特に社会福祉開発省など)、大学などの研究機関、NGOにおける関係者へのインタビュー、あるいは政府統計や政策評価報告書などの二次資料、あるいは過去数年の主要な新聞記事の閲覧などによって補足した。

### 4. 研究成果

本研究では、フィリピンのマリキナ市マランダイ地区にて実施されている条件付現金給付(Conditional Cash Transfer, CCT, 現地では4Psと呼ばれている)の事例に注目しつつ、スラムの貧困統治における包摂と非包

摂のあり方を明らかにしてきた。4Psの目指す包摂とは、現金給付によって直接的に住民の生活を改善したり向上させたりすることではなく、飽くまでも現金給付を呼び水として、人々の志向性、願望、そして生活様式の領域に介入することである。そこにおいて現金はあくまでもフィリピン語のプログラム名にある「pantawid」が示すように、「スプリング・ボード」であり、「橋渡し」なのである。そのような橋渡しに触発されつつ、受益者達は自己と子供の「人的資本への投資」の諸実践にいそむことになる。そのような諸実践により、人々は自己を知るための内省的まなざしを持ちつつ、家族への任務と責任を果たし、さらに隣人との紐帯を維持する存在となることを要請される。人々は、規律、自助、自律といった規範を内面化した主体となるべくエンパワーされ、そのような主体によって構成されるコミュニティの活性化が期待されているといえよう。

このように、4Psの意図する貧困統治と包摂のあり方とは、フィリピン社会に浸透するネオリベラルな統治性と、その具現としてのマリキナ市における都市統治という、より広い文脈と呼応関係にあるものと捉えることができよう。ここには、ネオリベラルな合理性が、貧困の社会的包摂のための福祉政策に動員されるとい、一見奇妙な結合があるといえよう。しかし、政治経済的イデオロギーとしてのネオリベリズムと、特定の主体を生み出すための統治の技法としてのそれを区別して考えるとき、このような結合は決して奇妙なものではなくなる。たとえば、文化人類学者のファーガスンが、南アフリカの現金給付政策の事例とともに論じたように、しばしば「人的資本への投資」、「自律」、「責任」、「生産性」といったネオリベラルな価値は、近代西欧的福祉国家を経験していない国々における社会政策の正当化の論理として動員される(Ferguson 2009)。本研究で検討したフィリピンの4Psも、同様にネオリベラルな合理性に基づきつつ、貧困の社会的包摂を目指す試みであったと考えることができるであろう。

本研究におけるマランダイ地区の事例からは、4Psの描く包摂のビジョンにそって、人々が自己とその生活を改編しようと試みる語りや実践に従事する状況が理解できた。しかし、その一方で明らかになったのは、プログラムによって包摂されない様々な人々の存在であった。それは受益者グループのメンバーとして現金支給を受けつつも、子供の継続的就学に非常な困難を抱える世帯、受益対象から漏れてしまった世帯、そしてプログラムに対する批判から「受給放棄」する世帯などであった。しかしながら、これらの非包摂の事例から4Psが失策であったと結論付けることが本研究の目的ではない。むしろ4Psが依拠するネオリベラルな統治性それ自体が、事例に見られたような包摂と非包摂を必

然的に内包するという点が本研究の結論である。

4Ps が意図する「人的資本への投資」の前提として、人々は自分自身や子供に関する行政上の書類や情報の適正な管理を要請される。しかしながら非包摂の事例は、そのような適正な管理のための資金、知識、そして意欲をもたないことから現金支給を受けられないままの世帯の存在を示していた。また、いまだ小学校を終えていないにもかかわらず、進級が遅かったために教育給付の支給対象年齢の上限を超えてしまったり、学齢期の児童を抱えながら苦しい家計であるにも関わらず受益対象となっていない世帯の存在は、4Ps が限られた財源の中でターゲットングと受益対象の制限をしなければならないことから必然的に起因する非包摂の事例であるといえよう。

全体として明らかになったのは、条件付現金給付のプログラムが、政府によるセーフティネットの提供ではなく、むしろ「自助努力」や「人的資本への投資」といったネオリベラルな理念を標榜する一方、実際の資源分配はパトロネージ（庇護）とクライエンテリズム（忠誠）の規範に基づきつつ行われており、また貧困層の間ではそのような規範の希求が根深く存在するということである。パトロネージとクライエンテリズムとは、貧困層と政治的エリートの間に見られる、票と財・恩恵の個別的かつパーソナルな交換関係であり、フィリピン社会に卓越するインフォーマルな政治経済的制度であると規定できる。このような制度は、汚職と腐敗の温床、市民社会の発展を妨げる障害、そして「弱い国家」の元凶として、特に国内のミドルクラスから常に厳しい批判にさらされている。その意味でこの制度は、社会の分断と断絶を再生産する脆弱性を内包する。しかしその一方で、貧困層にとってこのような制度は、持つ者と持たざる者がいかなる関係にあるべきか、両者はどのように共存すべきか、そして両者の間で資源はいかに分配されるべきかを示す規範を示唆している。それは近代的政治経済制度の確立とともに周縁化されるべき過去の封建的遺物ではなく、むしろ国による公助あるいはフォーマルな制度による支援に頼ることのできない社会に現出する今日的リスクと不確実性に対処するためのレジリエンスのあり方であるともいえよう。本研究では、このような脆弱性とレジリエンスの複雑な絡み合いに注目した民族誌を作成した。

最後に、本研究が示したのは、「社会的なもの」によるリスクの統治は、常に解放と規律化、包摂と非包摂の両者を併せ持つということである。しかし、本研究における諸事例からも理解できるように、包摂された者とされざる者の境界は絶対的なものではなく、様々な差異を伴った包摂と非包摂のあり方があると考えられる。そこで必要になるのは、一方で特定の社会政策レジームの固有性と、

他方でその政策の対象者である住民の生活世界における実践の多様性という、両極に照準を合わせつつ、包摂と非包摂のせめぎ合いを明らかにしてゆくことであろう。そのような作業によって、今後必要となる、社会的領域における連帯と共生のあり方を探る文化人類学的アプローチが可能になるであろう。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 4 件)

1. Seki, Koki, Capitalizing on Desire: Reconfiguration of the Social and the Government of Poverty in the Philippines, *Development and Change* (掲載決定), 査読有
2. 関恒樹, 越境する子どものアイデンティティと「家族」の表象 - アメリカ合衆国におけるフィリピン系1.5世代移民の事例から, 『文化人類学』, 78巻3号, 査読有, 2013, pp367 - 398
3. 関恒樹, スラムの貧困統治にみる包摂と非包摂 - フィリピンにおける条件付現金給付の事例から -, 『アジア経済』, 54巻1号, 査読有, 2013, pp47 - 80
4. Seki, Koki, Difference and Alliance in Transnational Social Fields: The Pendular Identity of the Filipino Middle Class, *Philippine Studies* Vol.60(2), 査読有, 2012, pp187-222

〔学会発表〕(計 10 件)

1. Seki, Koki, Citizenship Project and Government of Urban Risks: A Case of Marikina City, the 19<sup>th</sup> Young Scholars' Conference on Philippine Studies in Japan, June 28-29, 2014, Hiroshima University (Hiroshima).
2. Seki, Koki, Reconfiguration of "the Social" and the Government of Poverty in the Philippines: A Case of Conditional Cash Transfer in Slum Community of Manila, the 113th Annual Meeting of American Anthropological Association, Dec 3-7, 2014, Washington D.C.(USA).
3. Seki, Koki, Neoliberal Poverty Alleviation, Moral Discourse, and Mutation of "the Social": A Case of a Slum Community in the Philippines, IUAES 2014, May 15-18, 2014, Makuhari Messe (Chiba).
4. Seki, Koki, Citizenship Project and Contested Notion of "Help": Dilemma and Unintended Outcomes of Neoliberal Social Policy in the Philippines, the 3rd Philippine Studies Conference in Japan (PSCJ), Feb. 28 - March 1, 2014,

- Kyoto University (Kyoto).
5. Seki, Koki, Capitalizing on the Desire: The Government of Poverty under the Neoliberal Social Policy in the Philippines, the 112th Annual Meeting of American Anthropological Association, November 20-24, 2013, Chicago (USA).
  6. Seki, Koki, The Government of Urban Poverty and Neoliberal Social Policy: A Case of Conditional Cash Transfer in the Philippines, The 17th World Congress of the IUAES, the International Union of Anthropological and Ethnological Sciences, August 5-10, 2013, University of Manchester (Manchester, UK).
  7. 関恒樹, スラムの貧困統治にみる包摂と非包摂 - フィリピンにおける条件付現金給付 (CCT) の事例から, 日本文化人類学会、2013年6月9日, 慶応大学 (東京都)
  8. Seki, Koki, Inclusion and Non-inclusion under the Government of Urban Poverty: A Case Study of Conditional Cash Transfer (Pantawid Pamilyang Pilipino Program) under the Aquino Government, 9th International Conference on Philippine Studies, Oct 28 to 30, 2012, Michigan State University (East Lansing, Michigan, USA)
  9. Seki, Koki, Difference and Identity in the Transnational Social Field: A Case of the Filipino 1.5 Generation Children in the United States, Third International Conference on Geographies of Children, Young People and Families, 11th -13th of July, 2012, National University of Singapore (Singapore).
  10. 関恒樹, フィリピンの貧困削減政策にみる統治性と主体 アキノ政権下の条件付現金給付の事例から, フィリピン研究全国フォーラム、2012年7月14日, 京都大学 (京都市)

〔図書〕(計 3件)

1. Seki, Koki, Center for International Studies publications, University of the Philippines, Diliman, After "closing of the frontier": Mobility and government in Visayan fishing communities in the twentieth century, in Zayas, Kawada, de la Pena (eds.), Visayas and Beyond: Continuing Studies on Subsistence and Belief in the Islands, 2014, pp111-132.
2. Seki, Koki, Ateneo de Manila

University Press, Crafting Livelihood in the Era of Neoliberal Environmentalism, in Eder, James and Oscar Evangelista eds., Palawan and Its Global Connections, 2014, pp.161-194.

3. 関恒樹, 新水社, 後退する国家を生きる女性たち - フィリピンの海外雇用と条件付き現金給付の事例から, 『現代アジアの女性たち - グローバル化社会を生きる』福原裕二、吉村慎太郎編、2014, pp235-252

〔産業財産権〕  
出願状況 (計 0件)

名称 :  
発明者 :  
権利者 :  
種類 :  
番号 :  
出願年月日 :  
国内外の別 :

取得状況 (計 0件)

名称 :  
発明者 :  
権利者 :  
種類 :  
番号 :  
出願年月日 :  
取得年月日 :  
国内外の別 :

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

関 恒樹 (SEKI KOKI)

広島大学・大学院国際協力研究科・准教授

研究者番号 : 30346530